

令和7年度 卒業論文要旨・講評

学 生 氏 名	梶本 有咲
論 文 タ イ ト ル	実践経験に基づくリーダーシップ私論の構築 —弱さの共有が引き出す役割の再編と主体間関与のプロセス—
要 旨	<p>本研究の目的は、リーダーの不完全さがメンバーの主体性を引き出すプロセスを、筆者自身の経験に基づき解明することにある。</p> <p>「自身の限界をメンバーに共有することが役割構造にいかなる影響を及ぼすか」を問うべく、金井壽宏の「持論アプローチ」により、高校野球部と大学ゼミでの実践を質的に考察した。</p> <p>その結果、リーダーによる「弱さの共有」は、組織内に「役割の空白」を生じさせ、メンバーの当事者意識と主体的関与を喚起したことが示唆されたが、このプロセスを可能とした背景に、組織の基本的規律の存在が見出された。</p> <p>さらに、先行研究との対比を通じて、リーダーシップを「自身の限界の共有を契機とした役割再編プロセス」として捉え直す「私論」に至った。既存の「持論」の枠組みを、筆者自身の葛藤を伴う実践と結びつけ、独自の「私論」として整理することを試みた一考察であり、新しい協働的組織運営のあり方を検討する端緒となることが期待される。</p>
講 評	<p>本論文は、執筆者の高校時代の野球部マネージャーと大学時代のゼミ長の体験と、関係者へのインタビューを振り返ることで自らの所感を近接するリーダーシップ論と対比させ、独自の私論を構築しようとした意欲作である。リーダー自身の弱さをメンバーにあえて開示することで助け合いの雰囲気醸成された様子が描写され、そこに一定の規律が存在していた可能性が指摘されている。このように、抽象的概念・理論と現実の事象の接合が丁寧に行われていることに加え、自身の経験を理論に昇華させるプロセスは、大学における学業の集大成としてふさわしい価値を有しているものであるため、最優秀卒業論文として選定した。</p>